

海中道路周辺海域の自然再生

海中道路かわら版 第1号

うるま市では、現在、令和元年度～令和3年度の3年間を事業期間とする「海中道路周辺海域自然環境再生事業」に取り組んでいます。自然環境の再生をより効果的に実施していくためには、行政、関係機関・団体、そして地域住民の皆さまの強い連携が必要となります。この「海中道路かわら版 第1号」では、これまでの取組みについて、その概要をまとめてあります。ご一読ください。

ご意見等は、裏面の「お問合せ・ご意見」までお寄せください

海中道路の美ら海を、未来に繋いでいくための取り組みを始めました。

海中道路及びその周辺の海は、沖縄本島と平安座島から始まるうるまの島々を結ぶ重要な玄関口であるとともに、ドライブコース、サイクリングコース、海洋レジャースポーツの拠点として、年間をとおして市内外から訪れる観光客で大きな賑わいを見せる、県内有数の観光地となっています。

かつて、この海は、約1,272ヘクタールにもおよぶ沖縄島最大級の干潟を有し、干潮時に平安座島から本島へ徒歩で渡るスカーワタイや、干潟環境を利用した独特な漁が行われるなど、人々は自然環境と共に生きる生活を、長年にわたり営んできました。

1971年、かねてより島民の悲願であった海中道路の建設にともない、本島と島々を結ぶ交通手段は、徒歩や渡船から自動車へと劇的な変化を遂げました。

その一方、潮流の大きな変化による漂着ごみの滞留や堆積した海藻の腐敗、生活排水の流入等により、特に海中道路西口南側干潟における悪臭発生等の自然環境悪化がみられるようになり、今を生きる私たちに課せられた大きな課題となっています。

うるま市では、この美ら海を、よりよい環境で未来に引き継いでいくため、地域住民の皆さまを中心とする協議会を設置し、自然環境の再生、維持、そして自然環境再生後の利活用をとおした地域活性化の推進を目指し、令和元年度から、地域の皆さまとの協働による「海中道路周辺海域自然環境再生事業」を展開しています。

～自然再生に向けた基本方針～

- 【方針1】 豊かな恵みをもたらす海を取り戻し、その自然環境を未来永劫維持していくための仕組みを構築していきます。
- 【方針2】 様々な生物たちにとって良好な生育環境を確保し、この海の生物多様性を向上させていきます。
- 【方針3】 環境学習や自然環境改善活動等をとおして、この海の尊さを、人々が体感できる機会を創出していきます。

海中道路周辺の海を、その自然環境や利用状況に応じて4つに区分けし、それぞれの区域が目指していく方向性を設定しました。

レクリエーション干潟区域

幅広い活動を行うことのできる快適な水辺や、干潟の確保を目指します。



健全な泥干潟区域

多数の二枚貝や甲殻類等が生息できる健全な泥干潟の確保を目指します。



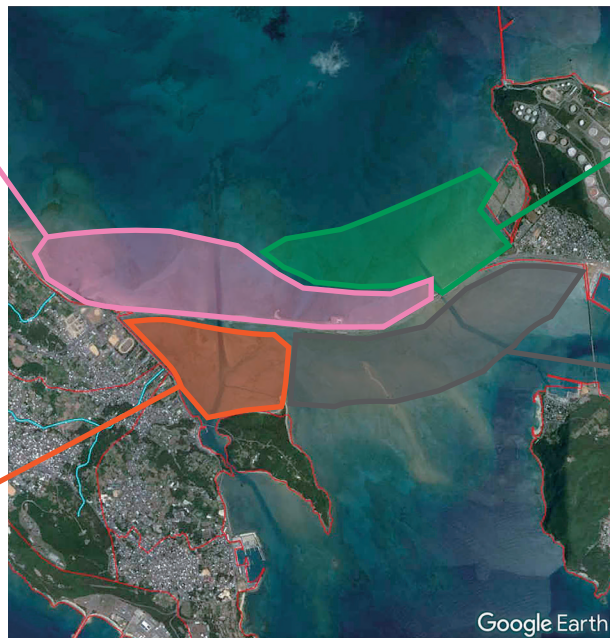
アマモ場・浅場区域

人々がさまざまな生き物たちと触れ合える親水性の高い水辺の確保を目指します。



豊かな砂干潟区域

多くの野鳥が飛来し、二枚貝や甲殻類等が多数生息する干潟を目指します。



Google Earth

地域の皆さまへのご協力をお願いします。

- ① 調理くずや食べ残しが流れてしまわないように、水切り袋などを使いましょう。
- ② 食器や鍋は、油污れを紙などで拭き取り、ヘラでかき取ってから洗いましょう。
- ③ 畑・建築現場などからの、赤土等の流出を抑制しましょう。
- ④ 浄化槽をご利用のご家庭は、設備を適正に維持・管理しましょう。
- ⑤ 下水道整備事業へのご理解・ご協力をお願いします。
- ⑥ 自然環境調査、海岸清掃活動などのイベントへのご参加をお願いします。
- ⑦ 子供たちの自然環境学習参加へのご理解・ご支援をお願いします。



協議会の主な取り組みをご報告します。

●協議会の実施

海中道路周辺海域の自然再生について、共通認識を深めるための協議会を、年2回の割合で開催しています。

協議会は、地域住民の皆さまをはじめ、行政機関、地域機関・団体、そして有識者等により構成され、令和元年度には、より効果的に自然再生を進めていくための基本構想を策定しました。

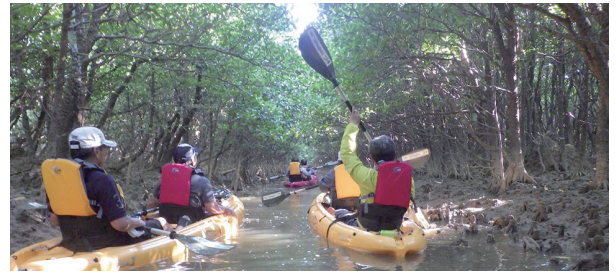
令和2年度以降につきましても、協議会における意見等を踏まえながら、基本構想に基づく実施計画の策定や、試行的再生工事・モニタリング・自然再生関連イベント等の実施に取り組んでいます。



●先進地視察の実施

天然記念物にも指定されている東村慶佐次川のマングローブ林を舞台とした、自然体験学習型カヌーツアーは、エコツーリズムの先駆けとして県内外に広く知られています。

同村は、平成27～30年度に、沖縄県の自然環境再生モデル事業として慶佐次川の自然再生に取り組んでいることから、令和2年11月に視察研修を実施し、自然再生や利活用のあり方等について深く意見を交換いたしました。



●干潟再生に向けた挑戦

海中道路西口南側干潟における、生活排水の滞留等に起因する悪臭発生等の自然環境悪化は、この海に暮らす生き物たちにとって、住みよい環境であるとは言い難く、さらには周辺地域の住環境にも悪影響を与えています。

協議会では、地域住民の皆さまと協働で、干潟の自然環境を改善するための実験的な試みとして、干潟の耕耘や浄化剤の鋤き込み等を令和2年10月に実施し、現在、継続的な調査モニタリングにより、効果の検証を実施しています。



干潟に浄化剤を散布して改良しています



干潟を掘り返して空気を入れています



水質調査も実施しました

海中道路周辺の生物たち

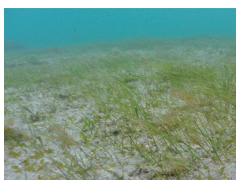
海中道路周辺には多様な生物が生息しています。生きものの生息環境を大切にし未来へ引き継いでいきましょう。



ハマサンゴ属



カサノリ



マツバウミジグサ



フトミゾエビ



台湾ガサミ



リュウキュウザル

◆お問合せ・ご意見◆ 皆様のご意見もお待ちしています。

うるま市役所市民部環境課 環境保全係 担当：目取真、田原 TEL 098-973-5594 (直通) / FAX 098-973-6065